

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500415		
法人名	医療法人 安倍病院		
事業所名	グループホーム みどりの里		
所在地	宮若市長井鶴230番地		
自己評価作成日	平成27年7月20日	評価結果確定日	平成27年8月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年7月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院が母体の為、病院との連携や入居者の状態を毎日主治医に報告し、いつでも受診できる体制が整っているため、入居者が安心して生活を送ることが出来る。昼食後に、ラジオ体操・レクリエーションをして入居者同士の交流の場を設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目のグループホームみどりの里は、母体法人の病院に隣接し、医療依存度の高い入居者も受け入れ、全職員で理念のその人らしさを発揮できる空間づくり、生活の場づくりに励んでいる。紙おむつで全介助だった入居者も、生活の場としての特性を活かし、リハビリパンツへ、さらに日中は布パンツで過ごせるようになっている。地域の高齢化が進む中、定期的な運営推進会議や家族会、ボランティアとの茶話会などは貴重な地域交流の場となり、自治会長からは「何かあったら、必ず近所の人が集まってくるから」と災害時の理解や協力を得ている。今年は2年毎の新理念の検討時期で、重度化した入居者の安全な入浴介助のための特殊浴槽の設置の検討、家族会の充実した継続など今後の展開が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> 3. たまにある <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> 3. あまり増えていない <input checked="" type="radio"/> 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **Aユニット/みどりの里**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの前に運営理念の唱和を行い、スタッフ間で共有をしている。入居者や家族にも分かるように玄関前に掲示をしている。	理念は2年ごとに見直しされ、今年も8月に新理念について話し合う予定である。理念の生活の場づくりに励む職員たちは、医療依存度の高い入居者やその家族に安心とその人らしさを発揮できる空間づくりを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いつでも立ち寄っていただける環境づくりをし、玄関は常に開放しており、ボランティアの方にもホームに来ていただいたり、地域の方が見学に来られたりしている。	2ヶ月ごとに茶話会が開催され、地域のボランティアによる歌や踊りの披露が入居者の楽しみになっている。地域の高齢化も進み、地域行事も少なくなっているが、デイケアの通所の際に会いに来られる方もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームと協力して、市で行われているお祭りに参加し、物品販売や啓蒙活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、地域の方や民生委員の方や入居者家族などの意見交換を着、会議内容を掲示している。	適切なメンバーで2ヶ月ごとに会議を開催している。委員と個人情報保護の誓約書を取り交わし、地域行事や地域に住む高齢者の話題、研修についての質問等が寄せられている。会議録は玄関に掲示し、公表されている。	地域の高齢化も進み、神輿の巡行や運動会の開催が無くなっているため、ホームで夏祭り等を企画し、運営推進会議の協力を得ながら、地域との交流を話してほしいか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の職員の方に参加していただいている。月に1回市の方からTELあり入居状況の報告を行っている。	地域包括支援センターとは、入居情報の問い合わせ等で連絡報告を取り合い、消防署に入居者のリストを提出して、緊急時の協力をお願いしている。地域同業者協議会GHみやわかに参加し、研修等で行政と協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は閉めておらず、いつも開放している。拘束も行っていない。夜間は鍵を閉めている。	GHみやわか研修に参加して、伝達講習を行っている。帰宅願望の強い入居者も居るが、玄関から外に出ることはない。玄関にセンサーを設置し、見守りで対応している。言葉使い等が気になる時は、職員同士で注意したり、管理者が注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は起きていないが、防止策としてスタッフのストレスが溜まらない様に話し合いや勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者はいないが、資料を整備している。スタッフは研修に参加して職員同士で理解したり、深める為に資料を回覧している。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用されている入居者はいないが、勉強会に参加し、説明できるように資料を整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、疑問や不安に思うことは十分に説明し理解して頂き、納得されて上で家族・利用者にサインを頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	クレーム・苦情に関してはカンファレンスを開き職員間で話し合いを行っている。	2ヶ月ごとに開催される家族会や、来訪時にもお話を伺うように努めている。職員の対応について意見が寄せられた時には、職員全員で話し合った結果を家族に報告して、納得していただいた。また、ご飯が硬いとの入居者の声に応え、柔らかめに炊き、食が進んでいる。	家族会をより活性化させるために、行事や避難訓練等の案内や、参加のお願いをされてはいいでしょうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスを開き、職員・入居者の意見交換の場を設けている。	ユニット合同会議で、ケースカンファレンスや日頃の気づきなどを集約している。意見を出しやすい雰囲気、居間に設置する展示ボードの購入やより安全な入浴のための特殊浴槽の設置など、提案された意見が反映される予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や職員のスキルアップに応じて給料アップに心がけている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別などを理由にすることなく、募集採用を行っている。	母体法人が職員の募集や採用を行い、人事異動でホームに配属される職員が多い。現在、40代を除いて20代から70代までの幅広い年齢層の職員が勤務している。外部研修の希望や資格取得にはシフトを調整したり、資格取得後は費用の助成等で推奨している。	母体法人の病棟からグループホームに異動される職員も多いので、職員の段階に応じた研修の実施で、生活の場としてのホームの理解やサービス提供を期待します。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	講演やGHみやわかの研修に参加し、資料を作成し人権意識を高め職員同士が共有を図っている。	虐待防止マニュアルを整備し、職員同士、言葉使いなど注意しあえる雰囲気づくりに努め、研修参加を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月病院で行われている研修に参加したり、GHみやわかの研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月GHみやわかで同業者との交流する機械や勉強会などを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困っている時や不安になっている時は声掛けし、話を傾聴している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会に来られた際は、入居者の状況を報告し、積極的にコミュニケーションを図っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状況を知る為に主治医やケアマネから話を聞き、本人やご家族の要望を聞いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔入居者がどのような生活をしていたか、家族から話を聞いたり、本人の生活歴を知り、信頼関係を築くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時や2ヶ月に1回行っている家族会の場で情報交換を行っている。家族が県外などでなかなか来れない方については、入居者の状態などをお手紙や電話で報告し、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が病院の通所リハビリに多く参加されているので、慰問があつてるときや時々遊びに行き交流している。施設も開放しているので、いつでも面会できるようにしている。	医療依存度の高い入居者が増え、理美容の利用も馴染みの店に出かけることがなくなり、訪問の理美容が利用されている。入居者自宅の近隣の方が病院に通院された折や、デイケアに通所した際に会いに寄っていただくことがある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがとれる様にスタッフが間に入り、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院との関わりがあるので、いつでも要望などが聞ける体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人とコミュニケーションをとり、意向の把握に努めて、職員間で情報交換に努めている。	居室で過ごされる入居者の声が、皆のいるところに出られないもどかしさや寂しさから出ていることを職員たちは理解し、話をするために訪室している。アセスメントシートは、細かな動作のひとつひとつをチェックするものや大まかな記載のものなど数種類使用され、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活歴を聞き、コミュニケーションをとりながら、その人らしい生活が送れるように支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは、毎日申し送りをし、記録の確認をするようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の要望を聞き、ケースカンファをする事で入居者のニーズを見つけ出せるようにしている。	退院後排泄が全介助だった入居者のトイレで排泄したいとの思いを支援し、紙おむつからリハビリパンツ、日中は布パンツを着用するまでになっている。本人の思いをとらえ、経過に応じた支援を実施し、モニタリングした担当の職員が短期目標の達成状況を記入し、計画作成担当者が評価を行っている。	支援経過に見られる成果を介護計画の中に具体的に表記し、モニタリングしやすく個別性のある介護計画を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤した職員が記録し、前日の状況を知る為に記録の確認を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に応じて、買い物へ行ったり、電話をかけたりしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度ボランティアの方に踊りや歌などの慰問に来ていただいている。また、1年に2回消防署の協力で火災訓練を実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝ドクターへ入居者の状態を報告し、週に1回ドクターによる往診を行っている。	母体法人の病院やデイケアからの入居が多く、法人医師がかかりつけ医になっている。定期的な訪問診療、検査やカテーテル交換の実施、病院看護職と連絡を密に行い、協力体制がとられている。隣接する歯科受診は送迎を支援したり、訪問歯科診療も行われている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝ナースへ入居者の状態を報告し、体調変化時にはすぐに報告し指示を仰いでいる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携しているので、何かあれば連絡できる体制が整っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には看取りに関する説明を行っている。出来るだけグループホームで介護させていただいている。最終的には、主治医の指示に従っている。	看取り介護についての同意書を整備し、本人や家族に説明している。ホームでの看取りはまだ無いが、病院に搬送されて間もなく亡くなるケースもあり、医療と連携しながらできるだけホームの生活が続くように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故の時には、病院と連携できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災訓練を行っている。スタッフは初期消火・通報の仕方が分かるようにしている。非常食も3日分用意している。	法人全体の訓練と別に、グループホーム独自の訓練を年2回、消防署の協力を得て実施している。運営推進会議で議題にあげ、地域の協力を得るように努めているので、自治会長からは「何かあったら、必ず、近所の人が集まってくるから」と言われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合わせて、トイレ誘導の時は周りに配慮して支援している。	姓で呼ばれる方がほとんどの中で、姓で呼ばれると怒りだす入居者は、家族や本人の了解を得て名前で呼ばれている。夜間、部屋を間違える入居者がいるため居室の鍵をかけてやすまれる入居者がいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思をできるだけ尊重し、その人にあった支援が出来るように工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて生活が送れるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、離床する時などは、声掛けし整容している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けをし、簡単なテーブル拭きや食事の準備など手伝って頂き、一緒にするようにしている。	法人と同一の業者により食材とレシピが届けられ、職員たちが交代で調理している。入居者からご飯は軟らかめにと希望があり対応されている。調査日、入居者の妹さんが食事介助に来所され、歓談される姿があった。月1回の誕生会は松花堂弁当が届けられ、いつもと違う雰囲気気分が変わるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に合わせて、副食をミキサーやキザミ・一口大にしたり、嚥下の悪い方にはとろみを付けてりしている。食事量・水分量のチェックをし記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツ使用の人は、定期的に交換を行い、パンツの人は、その人の排泄パターンに応じて、トイレ誘導を行っている。	寝たきりや留置カテーテル挿入中の入居者もいるが、立位ができる方はトイレでの排泄を支援している。落ち着きなく、トイレを探すなどのしぐさで排泄パターンを把握し、退院後の紙おむつで全介助だった入居者も、日中布パンツで過ごされている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から水分摂取に心がけている。必要な方は医師の指示の下で下剤を服用され、それでも出ない時は主治医指示の下で浣腸を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は1日おきで時間は決まっている。失禁などで汚れた時はいつでも入浴できる。	週3回をめぐりに入浴を支援しているが、2人体制でも難しい入居者が多くなり、特殊浴槽を近日中に設置することが決定している。入浴を拒否される場合は理由を探しながら、清拭やシャワー浴を勧めたりして、清潔を保っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に応じて入眠して頂いている。夜間は1時間おきに巡回を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から薬の説明書をもらい、いつでも見れるようにしている。服薬については、毎食後薬を飲まれる方の名前をスタッフが確認し、見守り服用していただき、支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単なテーブル拭きや洗濯物を畳んで頂いたり、レクリエーション時に歌を歌ったり運動したりして気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の頻度は少ないが、天気の良い日に車椅子で散歩に出掛けたり、通所リハでの慰問の見学に行ったり、初詣や花見に出かけている。	重度化で、外出は難しい入居者も多く、デイケアに行って一緒に慰問の見学をされる方もいる。年に2回のお花見は継続され、ホームのデッキでお茶や食事を楽しみ、外出気分を味わっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がご自分で管理できず、こちらで管理している。一部の方がお小遣い程度持っておられる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を使い、電話をかける援助を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの外には木を植えて、プライバシー保護と日よけになるように工夫している。	廊下は中庭を囲む回廊式でベンチやソファが置かれ、ゆったりと寛ぐスペースになっている。左右対象にAB各ユニットの厨房とリビングがあり、それぞれに食事作りの音や風景があるが、畳のスペースをつなぐと大きなステージになる。明るさや臭いに配慮され、季節感のある貼り絵を展示している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き、日向ぼっこやおしゃべりできるスペースを作っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた家具や家族の仏壇を持ってこられ使用している。	居室の入り口は引き戸になっているが、手すりを設置して安全に配慮されている。自宅からタンスやテレビなどを持ち込んだり、ソファや椅子を来訪する家族のために用意されている。洗面台で洗濯される入居者もあり、物干しが居室に置かれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることはご自分でしていただき、出来ないところは援助し、残存機能を活用していただいている。		